

## 日本人口学会 2025 年度第 1 回東日本地域部会プログラム

日時： 2025 年 9 月 18 日（木） 14 時 00 分 ～ 17 時 45 分

2025 年 9 月 19 日（金） 9 時 30 分 ～ 11 時 50 分

会場：宮城大学サテライトキャンパス

(<https://myupjt.sharepoint.com/sites/satellite2/SitePages/CollabHome.aspx>)

〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央 4 丁目 6-1 SS30 2 階

Zoom(オンライン)

<https://us02web.zoom.us/j/85791834283?pwd=jtJAMPMfsALin6WUsTec3ESvb6Spie.1>

ミーティング ID: 857 9183 4283

パスコード: 143753

### プログラム

18 日

14:00 - 14:35 Shrinking Japan and Regional Variations: Along the Sannyodo

KUMAGAI Fumie (熊谷文枝) (Kyorin University (杏林大学))

14:35 - 15:10 長野県における死亡率の地域差 – 2015 年以降の 65 歳以上人口の分析 –

清水昌人 (国立社会保障・人口問題研究所)

15:10 - 15:45 オーストラリア版小地域将来人口推計システムの公開について

井上孝 (青山学院大学)

休憩 15:15 – 15:30

16:00 - 16:35 大都市圏の男性化から女性化：日本における国内人口移動が地域人口の性比に与える影響の変化

○小坪将輝, 中谷友樹 (東北大学)

16:35 - 17:10 各国の将来世帯数推計手法の比較分析

○藤井多希子, 小山泰代, 小池司朗 (国立社会保障・人口問題研究所)

17:10 - 17:45 無作為抽出調査とインターネットモニター調査の結果比較—「家族と性と多様性にかんする全国調査」を例に—

山内昌和 (早稲田大学)

19 日

9:30 - 10:05 日本の地域別将来推計人口からみた将来の死亡数

○菅桂太<sup>1</sup>, 小池司朗<sup>1</sup>, 藤井多希子<sup>1</sup>, 石井太<sup>2</sup> (<sup>1</sup> 国立社会保障・人口問題研究所, <sup>2</sup> 慶應義塾大学)

10:05 - 10:40 東北地方の人口動向—要因分解・人口モメンタム・総人口シミュレーション—

鎌田 健司 (明治大学)

10:40 - 11:15 複数の空間的スケールを用いた人口増減の比較

草野邦明 (群馬大学)

11:15 - 11:50 都道府県別世帯数の将来見通し：2050 年までの趨勢

○小山 泰代, 藤井 多希子 (国立社会保障・人口問題研究所)

\* 1 件の報告は報告時間 20 分, 質疑応答 15 分の合計 35 分といたします。

\* 報告者の方で配布資料がある場合は, 20 部ほどご持参下さい。

## Shrinking Japan and Regional Variations: Along the Sannyodo

KUMAGAI Fumie (熊谷文枝) Kyorin University (杏林大学)

This presentation examines demographic shifts along the historic Sannyodo, spotlighting municipal leadership in Hiroshima (Aki and Bingo) and Yamaguchi (Suo and Nagato) as catalysts for sustainable responses to Japan's population decline.

## 長野県における死亡率の地域差

清水昌人(国立社会保障・人口問題研究所)

ー2015 年以降の 65 歳以上人口の分析ー "近年の研究によれば、都道府県間の死亡率の地域差は拡大傾向にあるといわれている(Nomura et. al 2025)。

本研究では、死亡率の地域差が都道府県以外の地域単位でどのような状態にあるかを検討するため、長野県の 2015 年以降のデータを使い、各市町村における高齢者の死亡率の推移と市町村間の地域差を観察する。

## オーストラリア版小地域将来人口推計システムの公開について

井上孝(青山学院大学)

報告者はこれまで 5 つの国または地域を対象として、小地域将来人口推計ウェブマッピングシステム(SAPP シリーズ)を構築し、インターネット上に公開してきた。本報告は、このシリーズの 6 番目のシステムとして 2025 年 3 月に公開を開始したオーストラリア版(SAPP for Australia)の紹介を行う。SAPP for Australia はオーストラリア統計局が設定する最小の統計地域(SA1)を単位として、2026~61 年における将来人口推計を実施した結果を公表している。

## 大都市圏の男性化から女性化: 日本における国内人口移動が地域人口の性比に与える影響の変化

○小坪将輝, 中谷友樹(東北大学)

東京大都市圏の性比はそのほかの地域よりも高い。これは人口移動が長期的に大都市圏の性比を上げる「男性化」の影響を与えていたことを示唆している。一方で、近年、女性の大都市圏の転入超過数が男性よりも大きいことが報告されており、大都市圏の性比を下げる「女性化」への変化が示唆される。本研究ではマクロレベルのデータから大都市圏の「男性化」から「女性化」への変化を把握し、その時期や要因を考察する。

## 各国の将来世帯数推計手法の比較分析

○藤井多希子，小山泰代，小池司朗（国立社会保障・人口問題研究所）

将来世帯数の推計手法そのものについては、これまで一定の研究蓄積がみられるものの、各国の具体的な推計手法について体系的に整理された報告はほとんど存在しない。

本報告では、近年北欧を中心とするヨーロッパ諸国でレジスターベースの国勢調査が急速に広がりつつある現状を踏まえ、OECD 諸国における将来世帯数推計の実施状況と推計手法の特徴について、最新の調査結果をもとに比較分析を行う。

無作為抽出調査とインターネットモニター調査の結果比較―「家族と性と多様性にかんする全国調査」を例に―

山内昌和（早稲田大学）

本報告は、人口学のデータソースとしてしばしば利用される大規模質問紙調査の方法への関心に基づくものであり、同時期に、ほぼ同じ内容の設問項目を用いて実施した無作為抽出調査とモニター調査の結果を使い、単純集計の結果を比較し、それぞれの結果の特徴や異同の背景を考察を試みるものである。2 つの調査とは、「家族と性と多様性にかんする全国アンケート」と「家族と性と多様性にかんする全国モニター調査」である。

## 日本の地域別将来推計人口からみた将来の死亡数

○菅桂太<sup>1</sup>, 小池司朗<sup>1</sup>, 藤井多希子<sup>1</sup>, 石井太<sup>2</sup> (<sup>1</sup>国立社会保障・人口問題研究所, <sup>2</sup>慶應義塾大学)

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(令和5(2023)年推計)」と整合的な将来の市区町村別死亡数の推計を試みるとともに、推計結果について考察する。

## 東北地方の人口動向―要因分解・人口モメンタム・総人口シミュレーション―

鎌田 健司(明治大学)

東北5県ならびに市町村の人口動向について、人口増加率の要因分解、2020年時点の人口モメンタム、出生率や純移動率を変化させた場合の総人口シミュレーションについて分析結果を示す。将来の人口減少については、過去の少子高齢化・人口流出による年齢構造の影響が大きく、人口動態率を変化させた場合の人口変動に及ぼす影響が小さいことなどを示す。

## 複数の空間的スケールを用いた人口増減の比較

草野邦明(群馬大学)

本研究では、群馬県前橋市を事例に、2015年から2020年までの人口増減を複数の空間的スケールから捉え、比較を行うことにより、人口変化の差と地理的分布パターンの特性を明らかにする。

## 都道府県別世帯数の将来見通し:2050年までの趨勢

○小山 泰代, 藤井 多希子(国立社会保障・人口問題研究所)

国立社会保障・人口問題研究所では、「日本の世帯数の将来推計(全国推計) 令和6(2024)年推計」(2024年4月公表)に続き、2024年11月に「日本の世帯数の将来推計(都道府県別推計) 令和6(2024)年推計」を公表した。本報告では、この推計の概要を解説するとともに、地域における近年の世帯の変動と、推計結果から見通される地域の将来像を示す。